

工機学校正門から三笠に続く道

○：現在

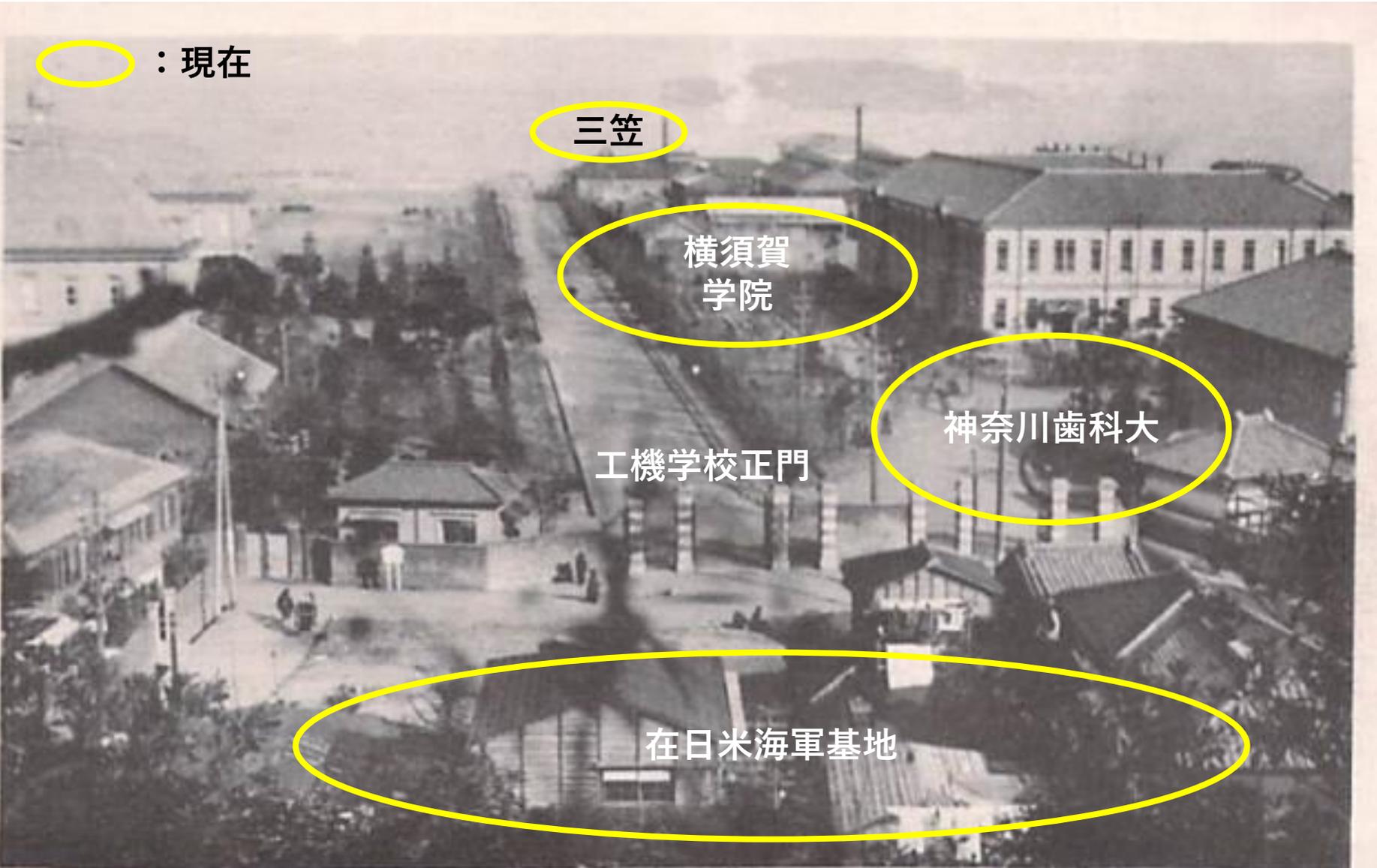
三笠

横須賀
学院

神奈川歯科大

工機学校正門

在日米海軍基地





横須賀海軍病院

奉安殿

レンガ倉庫

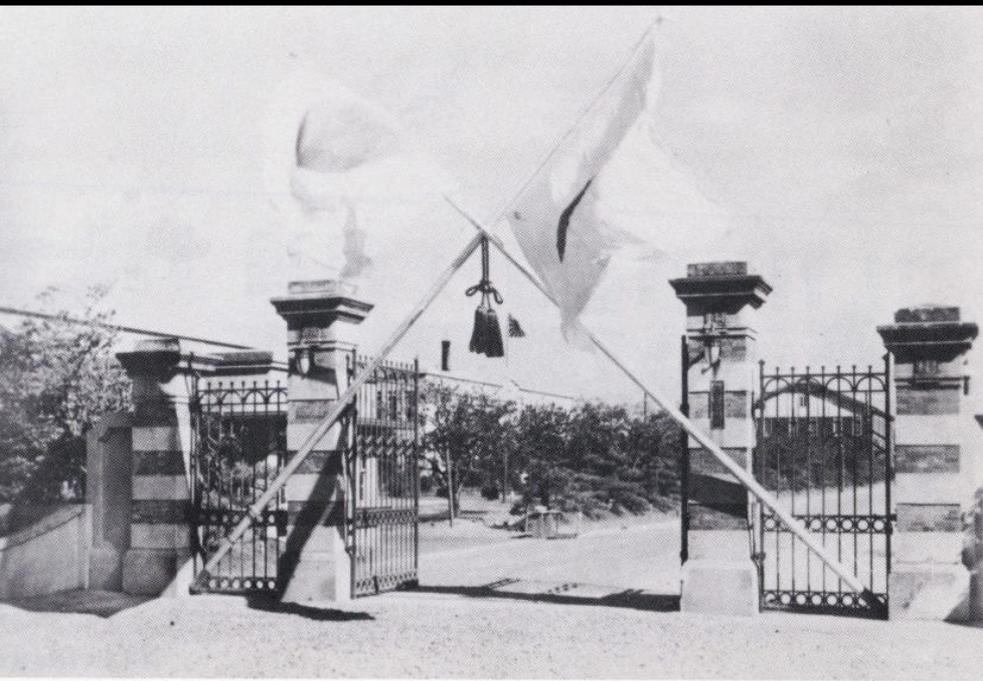
兵舎

正門

海軍工機学校 (海軍機関学校)

三笠

工機学校



校 門

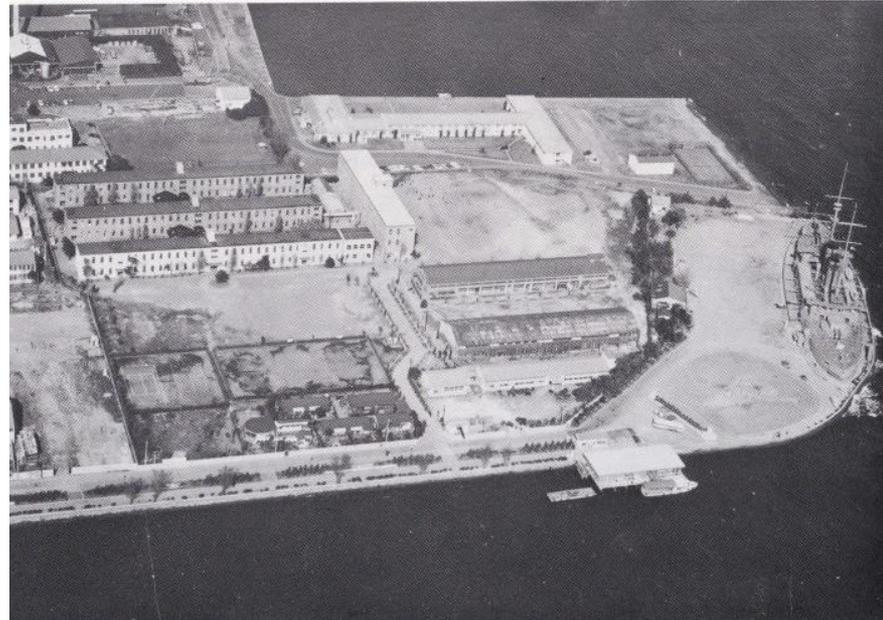
帝都の守り
横須賀の
峻波奇する
白濱に
文と武備との
精受けて
至誠一圖に
研鑽の
教の庭に
年ふりて
工機の舉
目にましぬ

工機学校本部玄関



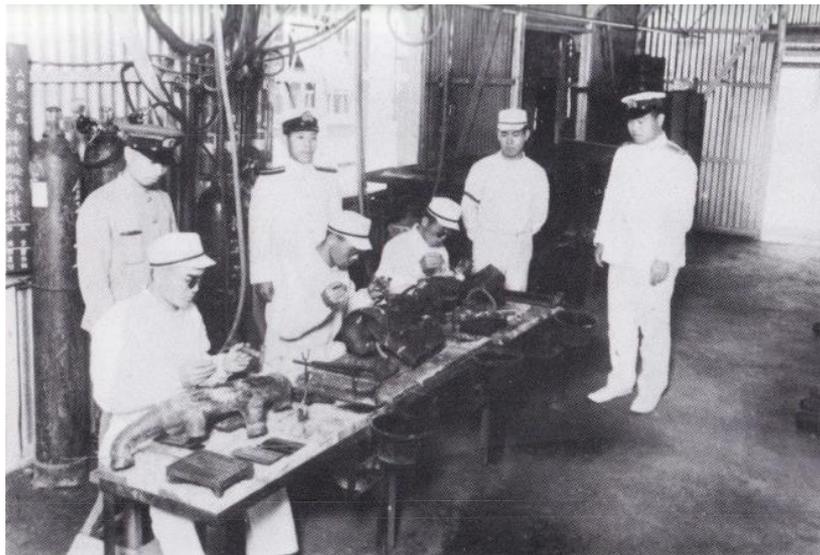
海軍工機学校本部玄関

工機学校校舎と記念艦三笠



工機学校における実習風景

溶接実習 (昭和15年)



昭和15年第3期(特修科)溶接実習

仕上げ実習 (昭和11~15年)



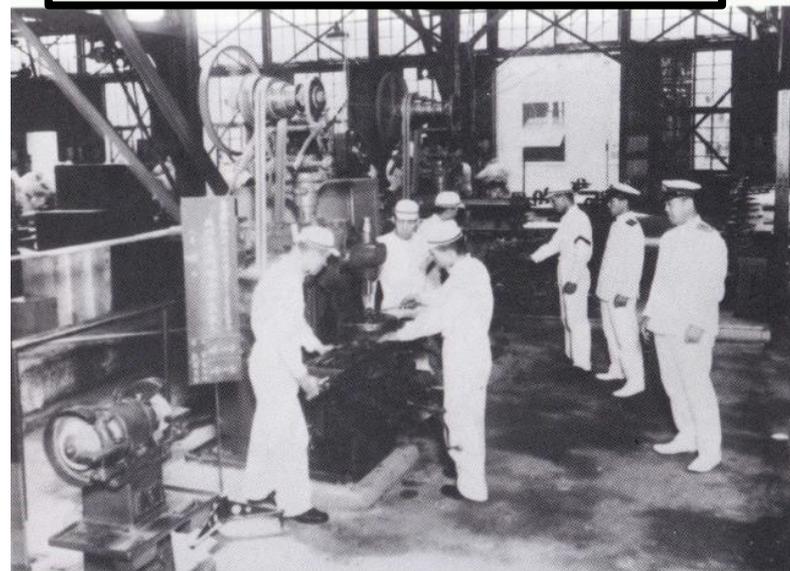
昭和11年~13年仕上(普通科)実習

電気溶接実習 (昭和15年)



昭和15年第3期(特修科)電気溶接実習

機会実習 (昭和15年)



厳しい訓練の唯一の楽しみは外出（上陸）

校舎屋上にて海軍体操
(遠くに記念艦三笠が)



校舎屋上にて海軍体操

寒稽古



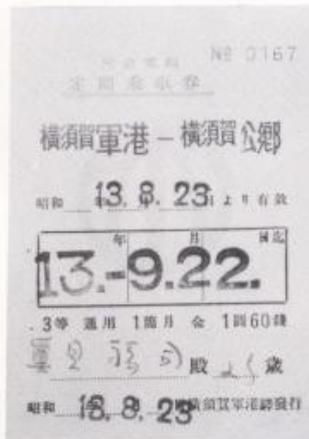
寒稽古

昭和13年頃

●横須賀軍港～横須賀公郷間
一ヶ月バス定期券

(1円60銭)

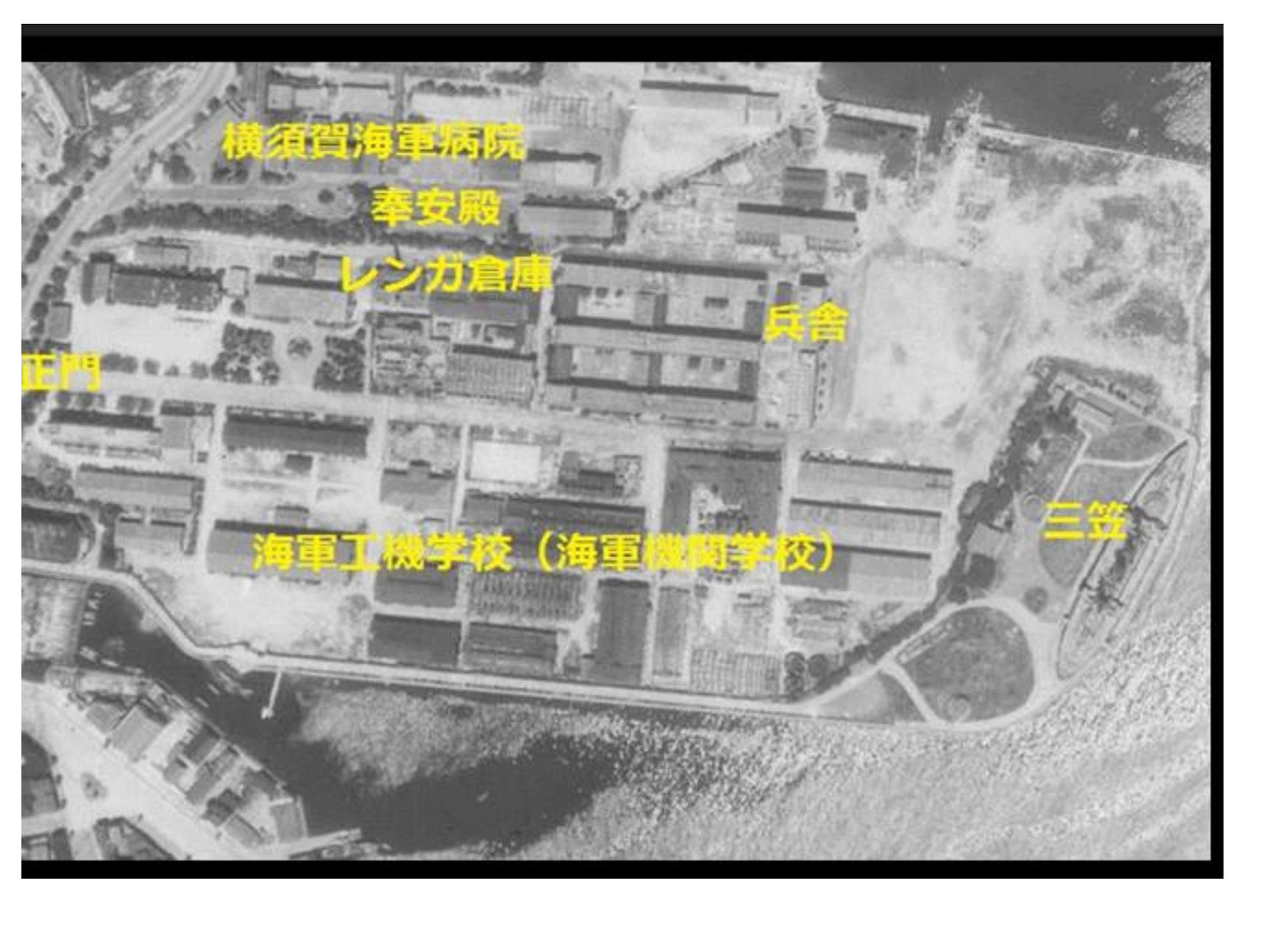
●下士官兵専用回数券



湘南電鉄定期券



下士官・兵専用回数券



横須賀海軍病院

奉安殿

レンガ倉庫

兵舎

正門

海軍工機学校 (海軍機関学校)

三笠

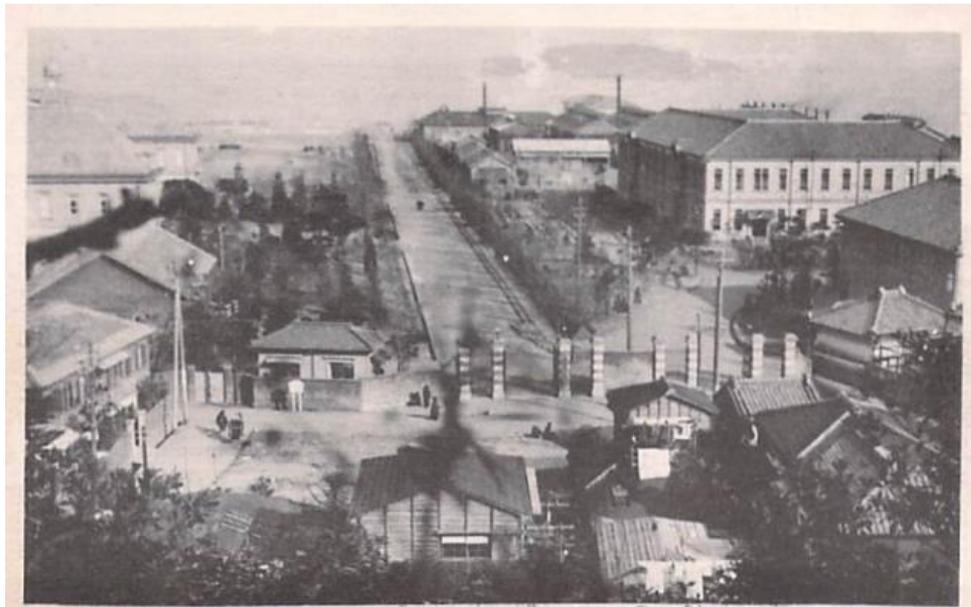
赤煉瓦倉庫 (神奈川県大3号館裏)



ジャカランタの木



三笠（白浜）に続く道、関東大震災に耐え、ひっそりと日本の近代化を見守りつつ、戦後の混乱期を乗り越え、今ここによみがえる。赤煉瓦倉庫



横須賀製鉄所時代
(桃色)
(明治前1864年)

横須賀造船所時代
(黄色)
(明治16年)

横須賀海軍工廠時代
(白色)



● 選抜された若者に海軍そのものの素養を教育するために海軍兵学校・機関学校・経理学校が設立された。

● 機関学校は横須賀造船所という現場に密着した教育が重視され、当初横須賀汐留に設立される。

● 日露戦争の風雲告げる中、海軍増勢（機関要員の増勢）の必要性から1901年（明治34年）埋め立て地白浜に移転する。

● その後関東大震災の被害をうけ生徒部（後に本部）は京都舞鶴へと移転するが、高度の機関術の教育機関として工機学校は横須賀に残る。

● 戦後自衛隊の素養教育は陸海空統合された防衛大学校で実施され横須賀（小原台）に所在し、すでに70年の歴史を刻もうとしている。

1870 1880 1890 1900 1910 1920 1930 1940

日本海海戦

工部大学 帝国大学工学部

技術教育

造船官の養成
1870 1882

造船工夫の養成
1870 1889

覺舎

造船工・機関工養成所

1907 工機学校 1914

術科教育と養成教育を分離

工機学校

赤煉瓦倉庫？

術科教育と養成教育を合併

1928

養成教育

1874 兵学校 横須賀分校
海軍操練所 兵学寮 (東京：築地)

1887 兵学校 (東京：築地)

1881 機関学校 横須賀：？

兵学校に合併/分離

1893 機関学校 横須賀汐留

1907 機関学校 横須賀白浜

1923 関東大震災 1925

機関学校 京都：舞鶴

兵学校 (広島：江田島)

1907 工機学校 (横須賀)

工機学校 (横須賀)

術科教育

1893 砲術練習所 (龍じょう)

1907 砲術学校 (横須賀)

1928

1893 水雷練習所 (迅鯨)

1907 水雷学校 (田浦)

1903 水雷学校で通信要員の訓練

1930 通信学校 (田浦⇒久里浜)

：横須賀

1934 航海学校 (横須賀)